

平成28年度

社会教育委員会議の協議経過とまとめ

平成29年4月

尼崎市社会教育委員会議

## 1 協議経過

回	開催日等	主な事項
第1回	平成28年5月31日(火) 於：教育委員会室	○平成27年度社会教育委員会議における協議内容について ○平成28年度社会教育関係主要・拡充事業について ○平成28年度社会教育団体への補助金について ○平成28年度社会教育委員会議における協議事項について
第2回	平成28年7月8日(金) 於：教育委員会室	○総合計画に係る社会教育関連施策と今後の取組について ■02（生涯学習）施策について ■17（地域の歴史）施策について
第3回	平成28年9月9日(金) 於：教育委員会室	○総合計画に係る社会教育関連施策と今後の取組について ■02（生涯学習）施策について ■17（地域の歴史）施策について ○阪神南社会教育委員会協議会の報告について
第4回	平成29年2月1日(水) 於：教育委員会室	○平成28年度主要事業実施報告について ○平成29年度主要事業について ○近松門左衛門の「自筆原稿」の寄贈について ○自治のまちづくりに向けて（ひと咲き施策推進担当より説明） ～「地域振興のあり方」と「みんなの尼崎大学」の検討について～

## 2 主な協議内容と協議結果のまとめ

### (1) 尼崎市総合計画に係る社会教育関連施策と今後の取組について

#### ア 協議の方向性

平成25年4月からスタートした「ひと咲き まち咲き あまがさき」をキャッチフレーズとする尼崎市総合計画においては、尼崎市として実現に向けて取り組む姿を「①人が育ち、互いに支えあうまち」、「②健康、安全・安心を実感できるまち」、「③地域の資源を活かし、活力が生まれるまち」、「④次の世代に、よりよい明日をつないでいくまち」の4つのありたいまちとして定め、その背景や市民・事業者・行政が取り組む方向性を20の施策ごとに示している。

その中の、社会教育関連施策「02 生涯学習」及び「17 地域の歴史」について、市民意識や目標指標の達成度合いを把握し、その取組の成果や課題、進捗度などを点検・確認することを目的として作成している「施策評価表」をもとに、市民・事業者それぞれの立場からどのような取組や関わりができるのか、加えて、市制100周年の年であることにも着目し協議を行った。

## イ 主な協議内容とまとめ

### ■「02 生涯学習－01・02・03」（生涯を通して学び、スポーツに親しめるまち）について

- (ア) 生涯学習において、社会教育関係課以外のさまざまな人や所属が関わっており、学校教育以外の学びについて市全体の取組を分かりやすく発信する必要がある。
- (イ) 地域学校協働活動において、各コーディネーターを中心にして学校を支援するグループを繋ぐ取組を進めているが、今後、公民館などとも連携を深める必要がある。
- (ウ) 夏休みのラジオ体操の誘致など、多くの市民が参加していた。今後、スポーツのまち尼崎として健康増進とともに、スポーツを通して子どもたちが過ごす場所としても事業を検討する必要がある。
- (エ) 公民館事業において「夏休みオープンスクール」や「地域お出かけ事業」といった自己の学びを地域に活かす活動に既に取り組んでいるが、今後さらに進めていく必要がある。
- (オ) 図書館において、興味を引く取組が実施されており、指定管理者により運営されている北図書館とも情報共有を図り、連携した企画にも取り組んでいるが、社会教育委員会内でも北図書館の状況について報告の機会を設けるとともに、両図書館が互いに切磋琢磨していく必要がある。

### ■「17 地域の歴史－01・02・03」（歴史遺産を守り活かすまち）について

- (ア) 今後寄贈を受ける尼崎城や新たに取得した富松城跡といった歴史資源と連携した、城内まちづくりや歴史館の整備に取り組み、周辺の商店街なども含め、地域資源を最大限活用する方策を検討し文化・交流の施策とも連携した取組を進めていく必要がある。
- (イ) 歴史館の整備を機に、既存資料のより一層の活用や他市施設などとの連携による展示内容の充実について引き続き努める必要がある。
- (ウ) 田能資料館ではボランティアの方々が、事業実施における説明や平成 27 年度に引き続き復元住居の修復などの活動を継続している。今後は幅広い層に地域の歴史に関心をもってもらい、市民と協働して地域の貴重な施設を保存、活用していく取組を進める必要がある。

## まとめ

以上のことから、平成 29 年度は、『生涯学習において、社会教育関係課以外でもさまざまな人や所属が関わっており、尼崎市における学校教育以外の学びについて市全体の取組を分かりやすく発信するとともに、自己の学びを地域に活かす活動についてさらに進めていくこと』また、『スポーツのまち尼崎として健康増進とともに、スポーツを通して子どもたちが過ごす場所としても事業を検討すること。』また、『地域資源を最大限活用する方策を検討し文化・交流の施策とも連携した取組を進めること』を教育委員会事務局に求めた。

以 上